

文体・性別・年齢からみる一文の長さ:
日本人母語話者の作文を調査資料にして

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 劉, 玲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/42647

文体・性別・年齢からみる一文の長さ

—日本人母語話者の作文を調査資料にして—

劉 玲 (北京師範大学)
choule_liliu@163.com

0 問題提起と本稿の課題

ふつう、前の句点「。」から次の句点「。」までを一文、つまり一つのセンテンスとしてみることができ、また、一文の長さ(すなわち文長)は文字数によって測られる^(註1)。一文の長さに関する研究として、たとえば、森岡(1988)によれば、子ども向けの読物・一般向けの雑誌・文藝関係の雑誌・政治関係の雑誌・学術論文といったジャンルの異なる文章において、一文の平均文字数はそれぞれ29.1字・37.5字・42.5字・58.7字・75.7字となっている^(註2)。また、橘(2000)によれば、三島由紀夫『午後の曳航』・井上靖『氷壁』・太宰治『人間失格』といった個性が大きく違う作家の作品において、一文の平均文字数は34.9字・40.1字・54.6字となっている^(註3)。このような結果からして、一文の長さは、文章のジャンルによって違い、また、同じジャンルであっても書き手の個性によって長かったり短かったりするとわかる。

ところが、『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』(1節に紹介する)に収めた日本人母語話者によって作られた作文を眺めると、一文の長さにかかわってくる要素は文章のジャンルや書き手の個性だけではないように思われる。たとえば、表1に掲げる「世界平和について」というテーマで書かれた二篇の作文を比べてみよう。

表1 作文Iと作文II

作文I 女・大学二年生・20歳・滋賀県出身

①平和と聞いて、その対極にあると感じるものは戦争である。②なぜ人類は戦争を終わらせることが出来ないのだろうか。③私は映画や書籍などで、戦争の悲惨さや愚かさを自分なりに理解してきたつもりである。④たくさんの方の罪のない命が失われる戦争は、当然憎むべきものであるが、それ

でも世界で終結が見えないのは戦争によって利益を得る人々もいるということだ。⑤私たちは決して戦争を認めてはならない。⑥平和な日本で暮らしている私たちにとって出来る最低限のこと、それは過去の資料をみることで戦争の過ちを認め、そして、二度と繰り返してはならないということ強く認識し、これからの世代にも教えていくことではないだろうか。(15番) (註4)

作文Ⅱ 男・大学三年生・20歳・京都府出身

①世界平和と聞いて一つ疑問に思うことがある。②どういった形が世界平和なのか。③すべての人が平等であることであるのか。④または、犯罪がなく、人々の安全が保障されていることをいうのだろうか。⑤それとも多くの人が幸福を感じることなのか。⑥世界平和の定義はわからないが、私が思う世界平和とは戦争がなく、地球上で争いがなくなることだ。⑦戦争は関係のないひと巻き込み、多くの死者をだしてしまう。⑧今の日本で暮らしている私にとって戦争とはどんなものか想像すらできない。⑨だが少なからず今を「平和だな」とも感じている。⑩また、理由があるから争うのもわかるが、戦争という手段をとらなくたってとも思ってしまう。⑪世界をなにも知らないただの一学生の意見だと言われればそれまでだが。⑫しかし戦争の必要がない世界があれば、それはとても平和であるのではないのだろうか。(65番)

作文Ⅰは計270字で、6つの文からなり、一文の平均文字数が45.0字となるのに対して、作文Ⅱは計330字で、12の文からなり、一文の平均文字数が27.5字となる。このように、同じジャンルで、同じダ・ゲアル体の文章であり、しかも、同じ年頃の大学生によって書かれた作文であるのに、一文の長さは大きく違っている (註5)。これは、書き手の個性によるだけ解釈してよいだろうか。これは、もしかして女性(45.0字)と男性(27.5字)という性別による違いではないかと考えたくなる。しかし一方では、次の表2に示すように、作文Ⅲ(女性による)は計343字で、14の文からなり、一文の平均文字数が24.5字となるように、女性も短い文を書いており、また、作文Ⅳ(男性による)は計346字で、8つの文からなり、一文の平均文字数が43.3字となるように、男性も長い文を書いているということが明らかである。

表2 作文Ⅲと作文Ⅳ

作文Ⅲ 女・大学四年生・22歳・大阪府出身

①日本だけを見てみると、とても平和だと思う。②軍隊もないし、戦争もやらないという憲法があるし、核兵器も持たないという決まりがあるから。④でもよくニュースで外国では国内紛争が起こっているのを見る。⑤殺し合ったり、何もしていない人まで犠牲になったりするのはどうしてだろうか。⑥政治が気に入らないとか、宗教的なこととか、私にはまだよく分からないけれど、人を殺すのは間違っていると私でも理解できる。⑦他の方法で解決できないのだろうか？⑧それから、アメリカ。世界をリードする国なのに、どうして未だに差別なんてするのだろうか？⑨黒人とか白人とか、どっちも一緒だと思う。⑩どっちが上でどっちが下とかそんなの無い。⑪差別がなくならない限り、世界が平和になるなんて思えない。⑫核兵器もいらない。⑬何のために作るのだろうか？⑭世界平和が実現するまで、悲しいけど、まだまだ時間がかかると思う。(47番)

作文Ⅳ 男・大阪育ち・20歳

①世界が平和になるために一番大切なことはなんだろう。②世界には様々な人がいるが、私が思うには人が自己防衛のため、または快樂のために根本的に持っている感情がいけないと思う。③たとえば、己の欲望だとか、差別したり、自分が安心感を得るため他人を卑下？見下したりなど、そのような感情が恨みや妬み、復讐心などを生み出してやがて事件はたまた戦争など色々なものにつながっていくのだと思う。④人は人の心を映す鏡とされているように、そのような感情ばかりが蔓延ってはどんどん伝染して世界平和は望めないと思う。⑤人間はもっと感動や喜び、勇気といったものを毎日感じるべきであり、人間には素晴らしい無限の可能性が秘められていると思う。⑥世界から戦争や紛争をなくすことは必ず実現できるはずだ。⑦私はその日が来ることを願っている。⑧ただ大切なのは希望をすてないこと。(57番)

以上の例からして、一文の長さは、どれか一つだけの要素によるのではなく、複数の要素の絡み具合によって変わると考えられないだろうか。本稿では、ひとまず、一文の長さは、同一のジャンルの文章である場合に、文体(ダ・デアル体かデス・マス体か)^(註6)・性別・年齢の三要素によってどのように違うかを、課題としたい。なお、書き手の個性といったやや個人的・主観的な要素については、常に把握可能なものではないので、今回特に検討しないことにする。

具体的に、まず、調査資料（『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』）と調査対象の抽出のしかたについて紹介する。次に、調査の方法について述べる。その上、調査の結果についてまとめ、また、その結果に基づき、性別・文体・年齢の三要素をめぐって、一文の長さについて観察してみる。最後に、本稿で明らかにしたことについてまとめ、今後の課題について述べる。

1 調査資料と調査の対象の抽出

本稿で使用する調査資料である『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』は、金沢大学の滝幸子氏をはじめとする研究グループによって開発された作文コーパスである。このコーパスには、次の表3に示す十のテーマで書かれた日本語の作文（1660篇）と中国語の作文（1660篇）をおよそ3320篇収められている。作文の書き手は日本人中国語学習者82名と中国人日本語学習者84名であり、これらの作文はそれら書き手（166名）一人ずつこの十のテーマでそれぞれ日本語と中国語とで書いたものである。

表3 作文のテーマ一覧

世界平和について	国のお正月
中日の経済関係について	中国人と日本人の異同について
私の家族	私の故郷
私の親友	私の大学
～を読んで	～を見て

本稿では、そのうちの「世界平和について」というテーマで日本人母語話者82人によって書かれた日本語の作文82篇を基本の調査資料とする。なお、(a) 書き手が日本国出身者であること、(b) 作文の文体が一定している、つまり、デス・マス体とダ・デアル体のどちらかで統一していること、(c) 書き手の性別と年齢が明確に示されていること、の三つの条件がすべてそろったものを本稿の調査対象としておく。この基準によって、82篇中67篇が抽出された。そのうち、女性によるものは多く、あわせて50篇で、男性によるものはやや少なく、あわせて17篇である。文体と性別によってまとめると、次の表4のとおりになる。

表4 82篇中本稿の調査対象とした作文 (67篇)

文体 \ 性別	女性による	男性による	計
ダ・デアル体	21 篇	6 篇	27 篇
デス・マス体	29 篇	11 篇	40 篇
計	50 篇	17 篇	67 篇

その他 82 篇中の 15 篇については、次の表 5 に示すような理由から、今回は調査の対象としなかった。

表5 本稿の調査対象外にした作文 (15 篇)

理由	作文の数
性別が不明である	7 篇
年齢が不明である	3 篇 (うち男性 2 篇、女性 1 篇)
出身地が不明である	2 篇 (ともに女性)
中国出身者である	2 篇 (うち男性 1 篇、女性 1 篇)
文体が一定していない	1 篇 (女性)

2 調査の方法と調査の結果

以下、さきに述べた調査の対象となる 67 篇の作文について、一つ一つその作文に含む文の数、作文の総計文字数および一文の平均文字数について調べてみる。なお、字数の数え方については、具体的に以下のように考える。

- a. 仮名表記の場合、仮名一つは一文字として数える。特殊音節である撥音・拗音・促音・長音については、同じくそれぞれ一文字として数える。
- b. 漢字表記の場合、一字は一文字として数える。
- c. 数字の場合、漢数字も算用数字も、みな、一文字として数える。
- d. 英文の頭文字で書かれた略語は、一文字として数える。
- e. 「。」、「、」「?」「…」など各種の句読点類は、文字数に入れない。
- f. 「」など、各種の括弧類は文字数に入れない。

以上のような数え方によれば、たとえば、以下の(1)～(5)は、/符号で区切ったように、それぞれ 24 字、19 字、45 字、40 字、27 字となる。

(1) 現/在/十/分/に/栄/養/の/取/れ/な/い/飢/餓/人/口/は/9/億

文体・性別・年齢からみる一文の長さ

/6300/万/人/お/り/ (後略)。

(2)一九四五/年/、私/た/ち/が/一/番/忘/れ/て/は/い/け/な/い/年/で/す。(17番)

(3)不/幸/な/こ/と/に/ア/メ/リ/カ/の/GDP/は/世/界/一/で/、軍/隊/は/最/強/、ア/メ/リ/カ/の/ユ/ダ/ヤ/人/は/世/界/の/金/融/を/牛/耳/っ/て/い/ま/す。(40番)

(4)世/界/平/和/度/指/数/1/位/の/国/は/ア/イ/ス/ラ/ン/ド/、第/2/位/は/デ/ン/マ/ー/ク/、第/3/位/は/ニ/ュ/ー/ジ/ー/ラ/ン/ド/で/す。(62番)

(5)戦/争/に/よ/っ/て/た/く/さ/ん/の/罪/な/き/女/性/や/子/ど/も/達/が/殺/さ/れ/ま/す。(62番)

以上で述べた調査の方法で調べた結果について、文体と性別によって整理すれば、次の表6のようになる。なお、各作文の詳細については、文末の附表1と附表2を参照されたい。ただ、今回は一回のみの調査で、若干ミスがあることを断っておきたい。

表6 文体・性別による一文の長さ

	ダ・デアル体		デス・マス体	
	女性による (21篇)	男性による (6篇)	女性による (29篇)	男性による (11篇)
作文に含む文の数	202文	61文	300文	106文
作文の文字数	7368字	1913字	9532字	3596字
一文の平均文字数 a	36.7字	31.4字	31.8字	33.9字
一文の平均文字数 b	34.05字		32.85字	
一文の平均文字数 c	33.45字			

3 分析

以下、前記の表6に示した調査の結果に基づいて、文体・性別・年齢の三要素をめぐって考えていきたい。

3-1 文体と性別からみる一文の長さ

まず、文体と性別の二要素から見ていく。表6から、以下のようなことが観察されよう。

- ・ 一文の平均文字数 a でわかるように、一文の長さとして、ダ・デアル体では女性 (36.7 字) は男性 (31.4 字) のほうを 5 文字ほど上まわっているのに対して、デス・マス体では男性 (33.9 字) は女性 (31.8 字) のほうを 2 文字ほど上まわっている。
- ・ 一文の平均文字数 b でわかるように、一文の長さとして、全体からして、ダ・デアル体 (34.05 字) とデス・マス (32.85 字) の間に大きく違うとはいえないが、前者は後者を 1.20 字ほど上まわっている。
- ・ 一文の平均文字数 a でわかるように、一文の長さは、どちらの文体においても、たいてい 30 字以上 40 字以下程度で、平均値は一文の平均文字数 c に示すように 33.45 字である。そのうち、女性によるダ・デアル体 (36.7 字) ではその他を上まわり、最も長く、平均値を 3 字ほど上まわっている。男性によるデス・マス体 (33.9 字) ではそれに次ぎ、平均値並みである。女性によるデス・マス体 (31.8 字) と男性によるダ・デアル体 (31.4 字) では、ほぼ同じ長さをしており、どちらも平均値を下まわっている。

以上のように、一文の長さは、文体と性別によって違うことが明らかである。すなわち、ダ・デアル体においては、性別の差が顕著で、女性は男性より長い文を書いており、デス・マス体においては、それほど違わないが、男性は女性より少し長い文を書いているという傾向が示されている。また、全体からして、ダ・デアル体はデス・マス体においてより文が少し長く書かれている傾向が窺える。そのうち、最も長いのは女性によるダ・デアル体においてである。

3-2 年齢からみる一文の長さ

さきに一文の長さは、文体と性別によって違うことを明らかにしてきた。次に、これに、さらに年齢という要素を加えて見ていきたい。

1 節で述べたように、今回の調査対象となる 67 篇中、女性によるものは 50 篇、男性によるものは 17 篇ある。実際、次の表にまとめたように、書き手の年齢からして、大きく、A. 20 歳前後 (19 歳～22 歳、ほとんど大学生)、B. 20 代後半 (24 歳～27 歳、大学院生または社会人)、C. 30 歳前後 (28 歳～32 歳、社会人または大学院生)、D. 50 歳以上 (社会人) の四つ

文体・性別・年齢からみる一文の長さ

の年齢層に分けることができる。なお、各グループの詳細については文末の附表1と附表2を参照されたい。

ただ、表7に示すように、女性によるものについては、多かれ少なかれ、四つの年齢層のいずれにおいてもデータが一応そろっている。残念なことに、男性によるものについては、空欄が三箇所存するように、データがそろっていない場合がある。また、いずれの年齢層においても、実際に該当するデータが一つの作文しかないという場合は6つある。このような事情により、以下の分析において不十分な点が生じえようことを断っておく。

表7 年齢による一文の長さ

	ダ・デアル体		デス・マス体	
	女性による	男性による	女性による	男性による
A. 20 歳前後 (19~22 歳)	37.7 字 12 篇、計 108 文、 4067 字	31.7 字 5 篇、計 51 文、 1616 字	32.1 字 26 篇、計 269 文、 8638 字	32.7 字 7 篇、計 68 文、 2224 字
B. 20 代後半 (24~27 歳)	35.42 字 5 篇、計 50 文、 1771 字		31.8 字 1 篇、計 9 文、286 字	39.3 字 3 篇、計 28 文、 1100 字
C. 30 歳前後 (28~32 歳)	34.8 字 3 篇、計 36 文、 1253 字	29.7 字 1 篇、計 10 文、 297 字	27.6 字 1 篇、計 11 文、 304 字	
D. 50 歳以上	34.6 字 1 篇、計 8 文、 277 字		27.6 字 1 篇、計 11 文、 304 字	27.2 字 1 篇、計 10 文、 272 字

(※表中下線_部の数字は一文の平均文字数を示す。)

表中の下線_部の数字(一文の平均文字数)に注目してみれば、以下のようなことが観察されよう。

- ・ 四つの年齢層にわたってデータがすべてそろえた女性によるダ・デアル体では、一文の平均文字数^(註7)でわかるように、AからDの順に37.7字、35.42字、34.8字、34.6字とあるように、隣り同士の年齢層の間に0.2字~2.3字の差が存し、年齢が上がるにつれて、文が短くなるということが明らかである。中には、30歳前後かそれより以降の二つの年齢層(CとD)はそれほど違わないが、最も若い20歳前後の年齢層(A)はこれらを3字ほど上まわっている。つまり、女性によ

るダ・デアル体では、全体から見て、明らかに若年層ほど文が長く、最も若い20歳前後の年齢層(A)と最も年輩の50歳以上の年齢層(D)の間に3文字ほどの差が存する。

- ・ 同じく、四つの年齢層にわたってデータがすべてそろえた女性によるデス・マス体では、一文の平均文字数でわかるように、さきに述べた女性によるダ・デアル体の場合とほぼ同様で、AからDの順に32.1字、31.8字、27.6字、27.6字とあり、年齢が上がるにつれて、文が短くなるということが明らかである。また、20代の二つの年齢層(AとB)はほぼ同じくらいで、その他の二つの年齢層(CとDは同じ)を4字ほど上まわっている。つまり、女性によるデス・マス体では、全体から見て、明らかに若年層ほど文が長くなる傾向で、20代の若い年齢層(AとB)と30歳前後かそれより以降の二つの年齢層(CとD)の間に4字ほどの差が存する。
- ・ 男性による場合については、ダ・デアル体では、A.20歳前後(31.7字)とC.30歳前後(29.7字)の二つの年齢層だけだが、一文の平均文字数でわかるように、女性の場合と同じく、年齢が上がるにつれて文が短くなり、両者の間に2文字ほどの差が存する。一方、デス・マス体では、B、A、Dの順に、39.3字、32.7字、27.2字とあるように、隣り同士の年齢層の間に5字か6字の差が存している。中には、20代後半(39.3字)は50歳以上(27.2字)の場合を12字ほど上まわり、二つの年齢層の間の差が際立って大きい。つまり、男性の場合、年齢が上がるにつれて整然とした傾向が見られないが、全体として、若年層のほうは年輩の年齢層より文が長いということが明らかである。
- ・ ダ・デアル体で、男性・女性の両方のデータがそろっている二つの年齢層についてみると、一文の平均文字数でわかるように、Aの年齢層では、女性による場合(37.7字)は男性(31.7字)のほうを6字ほど上まわっている。また、Cの年齢層では、ほぼ同じ傾向が見られ、女性による場合(34.8字)は男性(29.7字)のほうを5.1字ほど上まわっている。この点は4-1で述べた「文章体(ダ・デアル体)においては、性別の差が顕著で、女性は男性より長い文を書いて」いるのと同じである。つまり、ダ・デアル体で、同じ年齢層(AとC)においては、女性は男性より長い文を書いている。

- ・ デス・マス体で、男性・女性の両方のデータがそろっている三つの年齢層について見ると、一文の平均文字数でわかるように、AとDの二つ年齢層では、女性による場合は男性のほうをわずか0.4字か0.6字上まわり、ほとんど違わない。Bの年齢層だけでは、事情が異なり、男性による場合(39.3字)は女性(31.8字)のほうを7字ほど上まわっている(ただ、女性による場合は一つの作文のデータである)。つまり、デス・マス体で、一番下の年齢層(A)と一番上の年齢層(D)では、性別の差がほぼ認められないが、20代後半(B)の年齢層では男性は女性より長い文を書いている。
- ・ A. 20歳前後の年齢層にだけデータがすべてそろっているが、一文の平均文字数でわかるように、四つの場合のうち、女性によるダ・デアル体(37.7字)では、その他の三つすなわち男性によるダ・デアル体(31.7字)と女性によるデス・マス体(32.1字)と男性によるデス・マス体(32.7字)のいずれも5字か6字ほど上まわっている。つまり、20歳前後の年齢層(A)において、女性によるダ・デアル体では文が最も長く、その他は互いに大きく違わない。
- ・ データが見られる個々の場合についてみると、一文の平均文字数で示すように、4-1節において述べた平均値(33.45字)を4字以上上まわるのは20歳後半の男性によるデス・マス体の場合(39.3字)及び20代後半の女性によるダ・デアル体の場合(37.7字)である。一方、50歳以上の男性によるデス・マス体の場合(27.2字)及び30歳前後と50歳以上の女性によるデス・マス体の場合(両方とも27.6字)は、いずれも平均値を6字ほど下まわっている。つまり、一文の長さとして、20歳後半(B)の男性によるデス・マス体及び20歳前後(A)の女性によるダ・デアル体では最も長いほうであり、50歳以上(D)の女性と男性によるデス・マス体及び30歳前後の女性によるデス・マス体では最も短いほうで、両者の間に10字から12字ほどの差がある。

以上のように、一文の長さとして、個別的な場合(Bの年齢層で男性によるデス・マス体)を除けば、全体的に、性別・文体を問わず、大まか、年が上がるほど文が短くなる傾向が見られており、ほぼ30歳前後より以降大きく変化しないようである。また、長いほう(20歳後半の男性によるデ

ス・マス体及び 20 代後半の女性によるダ・デアル体) は、短いほう (50 歳以上男女及び 30 歳前後の女性によるデス・マス体) を 10 字～12 字ほど上まわり、大きく違っている。

4 まとめと課題

一文の長さに関する研究は管見の限り、それほど多くない。本稿では、『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』を調査資料にして、一文の長さは、実際、性別・文体・年齢の三要素の絡み具合によって違うことを明らかにしてきた。具体的に、以下のようにまとめられる。

①一文の長さは、たいていは 30 字～40 字程度であり、平均して 33.45 字となる。

②ダ・デアル体はデス・マス体においてより文が少し長いという傾向がある。そのうち、女性によるダ・デアル体では最も長く (36.7 字)、特に 20 歳前後の年齢層 (四つの場合がすべてそろっている) において明らかである。

③ダ・デアル体においては、性別の差が顕著で、全体からみても、女性 (36.7 字) は男性 (31.4 字) より文を長く書くという傾向があり、同一の年齢層 (A と C) においても同様な傾向である。

④デス・マス体においては、全体からみて、女性 (31.8 字) より男性 (33.9 字) のほうは少し長く文を書いているが、それぞれの年齢層においては一樣ではない。うち、20 代後半 (B) の年齢層において男性 (39.3 字) は女性 (31.8 字) のほうを大きく上まわるが、その他の二つの年齢層においては男女の差 (0.4 字～0.6 字) がそれほど認められない。

⑤女性の場合、ダ・デアル体でもデス・マス体でも、全体として、年齢が上がるについて文が短くなり、若年層ほど文を長く書くという傾向がある。これに対して、男性の場合、年齢が上がるにつれて整然とした傾向が見られない。

⑥個別的な場合 (B の年齢層で男性によるデス・マス体) を除けば、全体的に、性別・文体を問わず、年齢が上がるほど文が短くなる傾向が見られており、ほぼ 30 歳前後より以降大きく変化しないようである。また、長いほう (20 代後半の男性によるデス・マス体<39.3 字>及び 20 歳前後の女

性によるダ・デアル体<37.7字>)は、短いほう(デス・マス体における50歳以上男女<27.2字と27.6字>)及び30歳前後の女性<27.6字>)を10字〜12字ほど上まわり、大きく違っている。

なお、本稿では、事実そのものの記述にとどまり、なぜそのようなになったのかについては議論するにおよぶことができなかった。ただ、思うには、どの時代でも、どの国の言葉においても、特例を反映するものがある一方で、一般的な規範というものが常に存在するものであろう。一文の長さについても、同様なことが言えるのではないだろうか。たとえば、年が上がるにつれて文が短くなるということの背後に、社会人としていつそう洗練された表現を使用すべきだという規範意識があったのかもしれない。

また、本稿は普通の日本人母語話者が書いた作文を調査資料にしてきたので、本稿で明らかにしたことは、いわゆる文学作品や新聞・雑誌を資料とした先行研究のそれより、もっと日本人の生の言語生活の状況を反映することができようとする。たとえば、上記諸点中、③と④に見るように、ダ・デアル体とデス・マス体で男性と女性とではやや逆な傾向であること、また、⑥に見るように、年が上がるにつれて文が短くなることなど、全く筆者の予想と反対しているところがあり、なかなか興味深い。

ただ一方、事実上、調査の対象となった作文のうち、女性によるものは三分二(67篇中50篇)以上を超えるのに対して、男性によるものは三分の一未満であり、また、男女とも20歳前後の年齢層にだけデータが充実であるのに対して、その他の三つの年齢層においてはデータがやや十分でないといったような調査資料の上に問題点が存在している。そのため、本稿の議論としては、不十分な一面が残る。今後、調査の対象を広げて、本稿の議論について補足または修正する必要がある。

以上を含めて、今後の課題としておきたい。

注1 文字数によるという測り方については、石出 (2011 (144 ペ)) において、「文長は、文節数、文字数、音節単位 (ひらがなに直しての文字数) によって測られる。文字数による計測は厳密でないともいわれるが、同じ作家やジャンルでの比較であればほとんど他の方法と同じ結果が出ている」とあるように、その他に比べ、不厳密な一面があるが、中国語作文との比較研究を今後の課題の一つにしたいので、敢えて文字数によることにする。

注2 森岡 (1988) 未見。翟東娜・潘鈞 (2008<238 ペ>) の孫引きである。

注3 橘 (2000) の調査によって次の表を作り、三作品のそれぞれにおける一文の平均文字数を算出した。なお、橘 (2000) は未見。翟東娜・潘鈞 (2008<226~227 ペ>) の孫引きである。

注4 ①②などは文番号で、筆者による。「15 番」とはこの作文コーパスにおいて当該作文に付けられた番号である。

注5 本稿の調査で見られたそれぞれの場合における最も長い文と最も短い文について、以下に掲げる。なお、今回の調査の限り、100 字を超える長い文が二つ見え、二つとも女性によるダ・デアル体においてである。また、10 字かそれ以下の短い文が 7 つ見え、うち一つだけが男性によるダ・デアル体においてであり、その他はすべて女性によるデス・マス体においてである。

ダ・デアル体で、女性による最も長い文 : 118 字

(1) 現在では、私たちは日本にいながらテレビや新聞、インターネットなどから世界中の情報を手に入れることができるが、他国でのテロや紛争について知っていても、自分の日常生活に直接的な関係が無ければそれは「自分とは無関係のもの」になってしまうのではないだろうか。世界の国の中でも日本はかなり平和な国と言える。(女・大学四年生・21 歳・一文の平均文字数 62.8 字<66 番>)

ダ・デアル体で、男性による最も長い文 : 94 字

(2) 世界には様々な人がいるが、私が思うには人が自己防衛のため、または快樂のために根本的に持っている感情がいけないと思う。たとえば、己の欲望だとか、差別したり、自分が安心感を得るため他人を卑下?見下したりなど、そのような感情が恨みや妬み、復讐心などを生み出してやがて事件はたまた戦争など色々なものに

つながっていくのだと思う。 (男・20歳・一文の平均文字数 43.3 字<57番>)

ダ・デアル体で、女性によると最も短い文：8字

(3)核兵器もいらない。何のために作るのだろうか？ (女・22歳・一文の平均文字数 24.5 字 (47番))

ダ・デアル体で、男性によると最も短い文：10字

(4)この世界は平和ですか。そう問われると私は間違いなく平和ではないと答える。(男・20歳・一文の平均文字数 29.4 字<71番>)

デス・マス体で、女性による最も長い文：80字

(5)人間は欲深く、ない物ねだりをします。先進国はすでに良い生活を手に入れているのに、もっと良いものを食べたい、もっと質の良いものを手に入れたい、もっと強い権力を手に入れたい、もっとお金を手に入れたいと言います。(女・20歳・一文の平均文字数 43.4 字<36番>)

デス・マス体で、男性による最も長い文：74字

(6)世界が平和であるためには戦争をしてはなりません。そして戦争を起ささないためには各国間でもめ事やいさかひがあつたとしても、武力によってではなく話し合いによって解決するという姿勢を堅持することが大事です。(男・24歳・一文の平均文字数 45.1 字<29番>)

デス・マス体で、女性による最も短い文：6字

(7)意外でしたか？⑦予想通りでしたか？⑧私は意外でした。(女・21歳・一文の平均文字数 20.3 字<62番>)

デス・マス体で、男性による最も短い文：12字

(8)家庭平和を維持することは簡単ではありません。いわんや世界平和をやです。(男・60歳・一文の平均文字数 27.2 字<79番>)

注6 普通、ダ・デアル体は文章体で、デス・マス体は口語体であるとされているが、本稿の調査対象とした作文は必ずしも均一的なものではない。つまり、同じデス・マスの作文のうち、より口語的なものとそうでないものなど、度合いの違いがあるはずである。ダ・デアル体の場合についても同様なことが考えられる。そのため、本稿では、そこまで細かい議論に立ち入らない。

注7 その年齢層における作文は一篇しかない場合に、平均文字数ということができない。ここの処理はやや不厳密な部分が残っている。

参考文献

- 石出 靖雄 (2011) 「文長」中村明ら編『文章・文体・表現事典』朝倉書店
 樺島 忠夫 (1979) 『日本語のスタイルブック』大修館書店
 佐久間まゆみ (2003) 『文章・談話』朝倉書店
 橘 豊 (2000) 「文体・表現」中村編『現代日本語必携』(別冊国文学) No. 53、学燈社
 半沢 幹一 (1990) 「文体と表現」『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう
 森岡 健二 (1988) 『文体と表現』明治書院

翟東娜・潘鈞 (2008) 『日語概論』、高等教育出版社

〈附表 1〉 ダ・デアル体の作文 (※表示のしかた：たとえば「15/20 歳/滋賀県:45.0(6/270)」とあるのは、「本稿で使用するコーパスにおいて当該作文に付けられた番号/書き手の年齢/出身地:当該作文の一文の平均字数 (当該作文の文の数/当該作文の字数)」を示す。)

女性によるもの (21 篇)	男性によるもの (6 篇)
15/20 歳/滋賀県:45.0(6/270)	56/20 歳/富山県:29.1 (14/418)
38/20 歳/兵庫県:34.6(8/277)	57/20 歳/大阪育ち:43.3(8/346)
44/20 歳/京都府:45.3(9/408)	65/20 歳/京都府:27.5(12/330)
45/20 歳/京都府:35.2(8/281)	71/20 歳/和歌山県:29.4(9/265)
2/21 歳/奈良県:35.3(11/388)	
22/21 歳/大阪府:43.9(7/307)	
46/21 歳/大阪府:30.8(10/308)	
66/21 歳/兵庫県:62.8(5/314)	
67/21 歳/和歌山県:39.8(9/358)	
76/21 歳/京都府:31.3(11/344)	
47/22 歳/大阪府:24.5(14/343)	33/22 歳/広島県:32.1(8/257)
82/22 歳/出身地無表示:46.9(10/469)	
83/24 歳/神奈川県:43.8(11/482)	
50/26 歳/広島県:30.3(11/333)	
64/26 歳/和歌山県:60.3(4/241)	
7/27 歳/福岡県:27.9(14/391)	

文体・性別・年齢からみる一文の長さ

30/27 歳/神奈川県:32.4(10/324)	
31/28 歳/三重県:34(8/272)	37/28 歳/京都府:29.7(10/297)
81/31 歳/出身地無表示:37.3(22/821)	
20/32 歳/兵庫県:26.7(6/160)	
1/52 歳/大阪府:34.6(8/277)	

〈附表2〉 デス・マス体の作文（※表示の仕方は附表1に同様。なお、そのうち出身地については、「大阪府」と「大阪」の両方が表示されているような場合、敢えて統一せず、そのまま写す。）

女性によるもの (29 篇)	男性によるもの (11 篇)
	13/19 歳/奈良県:44.2(7/310)
5/20 歳/大阪府:40.9(8/327)	14/20 歳/大阪:22.3(16/357)
42/20 歳/大阪府:40.9(9/368)	23/20 歳/大阪府:29(10/290)
51/20 歳/大阪:35.4(16/567)	
63/20 歳/大阪:25.8(12/310)	
36/20 歳/兵庫県:43.4(9/391)	
55/20 歳/兵庫県:27.4(11/301)	
43/20 歳/静岡県:27.5(10/275)	
52/20 歳/鳥取県:26.6(7/186)	
3/21 歳/兵庫県:42.3(7/296)	6/21 歳/東京都:25.2(10/252)
69/21 歳/兵庫県:27.2(13/353)	9/21 歳/兵庫県:43.7(6/263)
10/21 歳/大阪:39.8(8/318)	12/21 歳/埼玉県:44.7(6/269)
19/21 歳/大阪:27.4(14/384)	
53/21 歳/大阪:28.75(12/345)	
70/21 歳/大阪府:22.5(12/270)	
74/21 歳/大阪:41.4(9/373)	
11/21 歳/広島県:27.2(11/299)	
17/21 歳/滋賀県:37.6(10/376)	
27/21 歳/徳島県:30.9(9/278)	
48/21 歳/沖縄県:49.1(7/344)	
49/21 歳/和歌山県:38.1(10/381)	
54/21 歳/福井:42.2(6/253)	
62/21 歳/高知県:20.3(15/305)	
4/22 歳/兵庫県:29.3(10/293)	26/22 歳/大阪府:37.2(13/483)
28/22 歳/大阪:45.9(7/321)	
35/22 歳/京都:28.9(13/376)	

応用言語学研究論集 NO8

68/22 歳/香川:24.9(14/348)	
21/24/和歌山県:31.8(9/286)	29/24 歳/京都府:45.1(11/496) 32/24 歳/高知県:38.2(9/344)
	18/26 歳/大阪:32.5(8/260)
34/30 歳/大阪府:27.5 (11/303)	
40/55 歳/群馬県:27.7(11/305)	
	79/60 歳/大阪府:27.2(10/272)

〈付記〉 本稿の執筆にあたり、『大滝幸子科研費作成・Sachiko-Rin』を使わせていただくことができた。大滝幸子氏に心より感謝を申し上げたい。